

学校評議員会の実施報告

学校名 岐阜県立 岐阜聾学校

学校長 林 正治

所在地 岐阜市加納西丸町 1-74 電話(058)-271-3700

1 会議の名称 平成30年度 第2回学校評議員会

2 会議の構成

<学校評議員>

川田 政美	(岐阜市加納東自治会連合会 環境美化部長)
棚原 美歌	(岐阜市加納東自治会連合会 民生・児童委員)
中山 俊裕	(株式会社岐阜セラック製造所 管理部長) (欠席)
田口貴久子	(岐阜県聴覚障害者協会 事務局長)
川上 昭雄	(岐阜県立岐阜聾学校同窓会 会長)

<その他の参加者>

小寺 智浩 (岐阜聾学校PTA会長)	林 正治 (校長)
辻川 起和 (事務部長) (欠席)	水谷 克 (教頭)
松木真由美 (幼稚部主事)	長瀬さゆり (小学部主事)
小倉 一宣 (中学部主事)	高野 圭 (高等部主事)

3 会議の目的

開かれた学校・信頼される学校づくりを一層推進するために、本校に関わりが深い学校評議員の皆様から、率直なご意見をいただき、学校経営の改善に生かす。

4 会議の開催

平成31年2月19日(火) 14時00分～15時30分

5 会議の概要

- (1) 校長挨拶
- (2) 生徒(今年度高等部卒業生)との懇談
- (3) 最近の本校の様子について
 - ・各部の様子等について説明
- (4) 学校評価について
- (5) 平成31年度学校評議員会について

6 議事等

【生徒との懇談】(高等部3年4名)

生徒A: 聾学校の3年間で協力することの大切さ、コミュニケーションの重要性を学んだ。資格取得に積極的に取り組み、生徒会や部活動で成長できたのは周囲の力があつたからだと感じている。

生徒B: 卓球で全国大会に進むことができたのが大きな思い出。会社の仕事を早く覚えて正確な仕事ができるようにしたい。

生徒C: 仲間の大切さと、周囲と力を合わせることがお互いを成長させることを実感している。聾学校の3年間でコミュニケーション能力を高めることができた。3年生では全国大会に手が届かなかったが、デフリンピック出場を目標に今後も努力したい。

生徒D: 岐阜祭(文化祭)のダンスリーダーを2年間務めた。1年目の反省を生かして2年目は話し合うことを大切にして成功につなげることができた。チームワームの大切を学んだ。人の話を聞いて判断するようにして正確な仕事ができるようにしたい。

評議員: これから長い時間仕事をして過ごすことになる。最初は一日が長く感じると思うが頑張ってもらいたい。大切なのは挨拶と、失敗したらすぐに謝ること。礼儀を守ること。逃げ出すと前に進むことができない。真面目さと人に聞く姿勢素直さが大切。

評議員: 学校と違って年の離れた人と集団になって働くことになるので、戸惑うことも多い

と思う。残業等もあるので長時間大変かもしれないが頑張ってもらいたい。皆さんの不安はコミュニケーションに関する大きいと思うが、遠慮しないで周囲に聴くといい。積極的に働きかけるくらいの姿勢を持ってほしい。スポーツは続けて欲しいし、私たち岐阜県聴覚障害者協会もバックアップしたいと思うので頑張ってください。

評議員：最初は仕事に集中し、慣れてきたら運動にも取り組めるとよい。

評議員：学校で頑張ってきたことをベースに頑張ってもらいたい。まず挨拶をきちんとすることを意識するとよいと思う。

評議員：結果を残してきた人たちなので、精神的な強さを感じる。聴覚障害に対して理解がない人と出会うこともあると思うが、どんな相手に対しても挨拶とわかったふりをしない姿勢が大切。周囲の人を頼ればよい。わからないことはわからないと先輩や上司に聞けばよい。運動も頑張ってください。

PTA 会長：部活動の大会に応援に行くと、先輩や周囲の人々を含む強い絆を感じる。卒業後もこの絆を大切にし、さらに強めるようにしていけるとよい。

【各部の様子について】（各学部主事より）

幼稚部：各年齢に応じた成長の姿が見られる。教科書のない教育活動ゆえに子どもたちの自発的な動きを捉えてそれを生かすことが大切。専門性の継承等の課題もある。

小学部：体験の不足がことばの不足につながっている。校外学習等を通じて体験的に学ぶことを大切にしている。健常児との交流は双方にメリットがあるので積極的に取り入れている。夢を持ちその実現のために今どうするかを考えさせたい。

中学部：10人の生徒に10人の教師という手厚い環境。新入生も学校や寄宿舎の生活に慣れた。3年生は様々な活動を通じてリーダーとして育った。下級生は、「次は自分だ」という自覚をもっている。自他の良さの発見を大切にしている。

高等部：自分で考え、行動する生徒を育てていきたい。体験的な学びが重要だと考え、就業体験等の活動を積極的に行っている。現3年生については、10名中の8名が進路確定している。就職については堅調である。自分に自信がない面があるので、その部分を成長させていくことが課題。

評議員：幼稚部では手話の指導は行われているか。できるだけ早期に取組を始めるとよいと考えている。小学部の夢を大切にする取組は大切。交流もたくさんしてほしい。聾学校のことが好きでない卒業生もたくさんいるのが現実だが、最近はその様子も随分変わってきてうれしく思っている。

評議員：夢をもってその実現のために進んでいくことは素晴らしい。実際にその夢を貫くことは難しいと思うが、ぜひ進めて欲しい。むしろ地域の健聴者の学校より、聾学校の方が先行していると言われるように、高等部まで通して夢を大切にしてほしい。

評議員：外国籍の子どもに日本語で指導しているということだが、手話の習得に向けては、定着が遅れたりしないか。

→学校：家族の母国語の関係もあり、学校で習ったことが家庭で反復的に学ぶことができないケースもある。手話と言葉を関連させ補完させることでうまく関連して獲得していくケースもある。

評議員：デフリンピック関係のシンポジウムが横浜で行われる。チラシを置いてく。掲示して、意欲付けに活用していただきたい。

評議員：中学部では高等部のような就業体験を行うのか。

→学校：年一回、学校周辺や居住地域の事業所に依頼し、協力をいただきながら職場体験を行っている。

【学校評価について】

○保護者によるアンケート結果より（12月実施）

- ・「良い」と判断できる項目が29。これは例年並みの数字である。
- ・「良い」と判断できる項目の中で「良い」の回答が90パーセントを超える項目が減少している。
- ・「わからない」という回答が増加している。今年度以上に情報の発信に工夫が必要。HPのタイムリーな更新等に工夫をして「分からない」を減らす努力を進めたい。
- ・進路等の学校の情報を積極的に発信していくことが課題と感じている。

評議員：防災教育について充実しているのは素晴らしいことだと思う。参考までに他の小学校で、「命を守る訓練」の実施計画を、学校の職員ではなく消防署が立て、職員の動きをチェックした実践がある。第三者的視点が入ると新たな発見もあるそうなので参考にさせていただけるとよい。

→学校：参考になるご意見をありがとうございます。本校でも第三者的視点の取り入れについては、岐阜大学の村岡先生のご協力をいただきながら取り入れを進めているが、新たなアイデアをいただき、積極的に取り入れていきたい。

7 会議のまとめ（校長より）

学校評議員会場で、生徒自身が自分のことを語る機会は大変意義のある大切な体験になった。今後も生徒たちの自己表現の力をさらに伸ばしていきたい。また、たくさんの餞のお言葉をいただき、社会に出て行く生徒たちは大変勇気付けられた。

学校評価アンケートでは「わからない」という項目が一番の課題ととらえ、情報発信の即時性を心がけていくとともに、学校経営方針についての周知、校長の経営ビジョンについての発信を強化し、タイムリーな情報提供を行い、学校の教育活動を多くの方々と共有できるようにしていきたい。